

情報ステーション 第13期・2016年度 事業報告

0. 概要と組織

今期においても、われわれ情報ステーションが「そこに住む人々が、自分の街に対して誇りと愛着を持ち、風土や歴史を元に、文化の創造と経済の自立を目指し続けること」と定義しているまちづくりに資する事業に取り組み、多世代交流が自然と生まれる活動を広げてきました。

また、それらの活動を評価頂き、ふるさとづくり大賞では総務大臣賞を受賞しました。

0-1. 組織運営

組織においては、幅広く活動の趣旨を伝え新たに12名の正会員の方に参加頂きました。また、今期は廣瀬聡、山田玲子、大沢寛行、加藤歩人の4名の理事を新任し、多世代にわたる多様な価値観での意思決定を行うと共に、理事会を公開し、開かれたガバナンスが行えるように努力しました。

0-2. 財務経理

団体の活動を継続的・安定的に実現するために、部門および品目ごとの経理処理を徹底し、経営内容の透明化に努めました。また、売掛金増加によるキャッシュフローの悪化に苦しみましたが、一つ一つ丁寧に解決しました。

0-2-1. 助成金

今までは、自立した活動を維持するために助成金やその他補助に頼らない運営を続けてきましたが、12年間の活動の実績が世間にどのように評価されるのかを計るため、またより広い活動を行うために、資金調達担当の理事を置き、民間助成金への応募を積極的に行いました。

- ・千葉県地域ぐるみ福祉振興基金より市民福祉活動助成を受領
- ・コープみらいかがやき大賞、コープみらい地域かがやき賞受賞



1. 民間図書館事業

- 実施日時：通年
- 実施場所：全国 86 カ所の民間図書館
- 従事者数：各図書館の窓口ボランティアや単発ボランティアの参加者など約800名（前期750名）
- 受益対象者の範囲及び人数：民間図書館の利用登録者利用者12、470名（前期11、772名）

民間図書館事業では、市民の皆さんから寄付いただいた本をもとに、ボランティアが登録・整理・貸出を行う、みんなで作る図書館を開設し、地域の交流空間の創造というコンセプトに沿って、地域の方とのつながりを増やし、またボランティアなどに関わってくれた方々の更なる活動への参加促進を目指しました。その為に、図書館数をはじめ、ボランティア、寄贈本、本の貸出しなどを全体的に増やすと共に、その実現のために日々の業務フローの確立に努めました。

1-1. 図書館運営部

民間図書館事業・図書館運営部は、ボランティアのみで運営する地域中核図書館のマネジメント、民間図書館をつくりたいという方の依頼を受けて、老人ホームやマンションの共用スペースなどを有効活用した協働館の本棚の管理、新規図書館の開設を担当しました。

新規開設においては、過去に協働を行っている団体との事例をさらに広げるとともに、新たに連携できる団体等を増やすことに努めました。

民間図書館は、西日本では沖縄まで延び計15館の新規図書館を開設しました。高齢者福祉施設への図書館導入においては、提携企業を増やすことができバリエーションの拡充に繋がりました。また、打合せから開設まで数年かかるマンションデベロッパー案件を2館開設しました。

【目標に対する実績】

- ・ ボランティアを1000名に増やす
図書館ボランティア向けの説明会を定期的に行うことが出来ず目標に届きませんでした。夏休みなどの長期休暇で学生に、本の登録や整理で一日限りのボランティアの日で大勢参加して頂き約800名になりました。
- ・ ボランティアの参加率を30%に増やす
ボランティアが窓口に入って貸し出しを行う地域中核店舗をセルフカウンター方式に変えたことにより全体で約10%の参加率となりました。システム上での把握が難しくなり課題となっています。
- ・ 貸出冊数を3万冊に増やす
上記セルフカウンター方式になれない利用者がシステムを通さずに本を借りるケースがやや見受けられ約25,000冊の貸出となりましたが、徐々にやり方に慣れていったように感じました。
- ・ 新規協働事例の増やし方を検討しフロー化する
→ 十分に検討を進められなかったので引き続き取り組みます。
- ・ 新規協働事例を増やすための取り組みを進める
→ 十分に検討を進められなかったので引き続き取り組みます。
- ・ 図書館を延べ100館に増やす → 沖縄など遠方も含めて延べ86館となりました。
- ・ 地域中核図書館の収益改善 → 収益化の取組自体は実施したが大幅な改善とはなりませんでした

船橋北口みらい図書館・・・会場提供の利用拡大と、自販機設置等の収入源開拓

→ 自販機設置しました

ちばぎんざ図書館・・・会場提供の利用拡大、商店街事務受託の検討

会場提供の利用拡大は手がつけられませんでした。事務受託に関しては商店街にお願いをしに行くところまで進めましたが、業務発注側の都合もあり実現までには至っていません。

袖ヶ浦団地まいぷれ図書館・・・ネーミングライツの契約見直し、商店街事務受託の検討

契約の見直しは引き続き行っています。事務受託に関しては検討できませんでした。

1-2. 蔵書管理部

民間図書館事業蔵書管理部は、本の寄贈の受付から登録・配架・移送・除籍・販売など蔵書流通のすべてを担当しました。

現在、船橋北口みらい図書館、袖ヶ浦団地まいぷれ図書館、ちばぎんざ図書館、船橋本町通り街づくり図書館の4つの地域中核図書館に分散している上記機能を、船橋市本町周辺に船橋蔵書基地を開設して集約を図り、より効率の良い管理を目指しましたが、物権の確保が出来ずに断念しました。

またこれに伴い、ボランティアDAYの開催も少なくなってしまうましたが、多くのボランティアの方が参加して下さり、加えて寄贈本も増加し、みんなで作る図書館は実現できたと感じています。

ボランティアDAYを19回開催し、延べ参加者91名での蔵書登録・選書等が上記15館開設の大きな支えとなりました。

【目標に対する実績】

- 寄贈本を2万冊に増やす

色々な企業から多数本を寄付していただくなど目標の2万冊には届きました。

- 船橋蔵書基地の設置

物件の目処が立たず延期。体制を整えてしかるべきときに開設出来るようにしたいです。

- ボランティアDAYを80回開催する → 事務局での開催が継続できず19回となりました。

- Amazon月額販売額20万円の達成

本の登録もボランティアDAYで行っていたので開催減に伴い最大7万円と減額。既に蔵書として複数冊ある本を登録する際にシステムでAmazonの中古販売で値段がつくものに関しては自動でピックアップされる仕組みになっています。

1-3. 情報システム部

民間図書館事業情報システム部では、蔵書管理システム及び店頭端末、またこれらの通信ネットワーク、蔵書検索サイト「図書館生活」などの開発・管理とこれらが持つ情報管理すべてを担当しました。

1-3-1. 蔵書管理システム

管理用のバーコードシールを貼った本の貸出・返却処理を行う蔵書管理システムでは、窓口に入ったボランティアのための蔵書管理アプリと図書館利用者が自分で本の貸出・返却処理を行えるセルフ貸出しシステムの更なる改善を進めました。

また、システムを導入していない図書館では紙の貸出票に記入してもらい管理しています。記入済みの用紙の情報入力補助機能を向上し、データの量と質を増やし、図書館の利用を促進する配架に活用しようとしてきました。

【目標に対する実績】

- ・ オフラインデータの入力
データ入力は進行しているので、システムへ反映と蔵書最適システムでの活用の仕組みの設計を来期以降行いたいです
- ・ 新規開館図書館の蔵書選定（蔵書最適化システム）→ 取り組めず14期にて改めて実施予定です。

1-3-2. 蔵書検索サイト「図書館生活」

民間図書館の蔵書をインターネット上でどこでも検索できるWEBサイト「図書館生活」では「図書館をもっとたのしく便利に」の趣旨を実現するため、従来の蔵書検索機能の他に、図書館の情報発信機能を強化しコンテンツを増やす事により、各図書館の楽しさ・魅力が多くの人に伝わるようなサイト作りを検討しました。

【目標に対する実績】

- ・ 配架リクエストを2000件に増やす
提携図書館からの要望を受け職員が代わりに反映する事はある程度できましたが計1331件です。本来は利用者がそれぞれの図書館でできる機能なのでやり方の周知徹底をしたいです。
- ・ ボランティア向け機能の移管 → 進めることが出来なかったため来期こそ取り組みたいです。
- ・ 各図書館ページのコンテンツ強化 → 取り組めず14期にて改めて実施予定です。



2. イベントサポート事業

- 実施日時：通年
- 実施場所：各イベント会場など
- 従事者数：48名（前期30名）
- 受益対象者の範囲及び人数：主催者250名、参加者150,000名（前期主催者200名、参加者100,000名）

イベントサポート事業では、地域のおまつりやイベント等の広報や事務局運営のサポート、会場提供、ボランティアによる開催当日の運営支援などを担当しました。

今期は各イベントの記録を徹底し数値化を進め、リソースの把握と活動の充実につなげることに努めました。本事業に関しては例年開催しているお祭りなどのサポートを継続して実施した他にも、講師を呼んでの講演会も開催しました。

- ・船橋海老川親水市民まつり
- ・船橋海老川・長津川福像巡りウォーキング
- ・御菜浦・三番瀬ふなばし港まつり
- ・船橋市本町通り「きらきら夢ひろば」春・秋
- ・わくわく図書館って？～もっと本が好きになる～ 講師落合恵子さん
- ・自然と人を紡ぐ船橋で生まれ育った小説家 森沢明夫講演会

【目標に対する実績】

- ・記録の徹底 → 実施済み
日々の業務報告を1ヶ月に1度データでまとめる事ができるようになりました。ただ、記録数が多くなってきたのでより簡易な記録方法を検討する必要があると感じました。
- ・広報・事務局サポートの数値化 → 実施済み
参加者数、人時計算などこういった項目を記録すればいいか確立できたと感じています。
- ・ボランティアDAYの開催 → 上記主要イベントなどの当日サポート含めて9回開催
- ・会場提供の拡大 → 新規提供者も増えたが大幅な拡大とはならず。14期にて改めて実施予定



3. 生涯学習コミュニティ事業

- 実施日時：通年
- 実施場所：船橋北口みらい図書館
- 従事者数：6名（前期10名）
- 受益対象者の範囲及び人数：開催43回、講師26名、参加者186名
（前期講師70名、参加者428名）

生涯学習コミュニティ事業では、だれでも参加、講師になれる市民大学として、船橋みらい大学の講師ブックイングや当日の運営などを担当しました。全43回開催し、民間図書館事業との連携により、講義内容や関連資料のアーカイブ化に取り組みました。

通常講座では、FAAVO千葉の起案者に目標金額を達成するPRで講師をして頂き、無事プロジェクト達成の一助となりました。また、卒論・卒業制作で何をしたかを発表するシリーズを始めました。絵本関連で1回の参加者が過去最高の34名を達成した講座もありました。

【目標に対する実績】

- ・講座の充実 → 新シリーズの講座開設などで実施済みです。
- ・講座内容のアーカイブ化 → 取り組めなかったので14期で行いたいです



4. ソーシャルファイナンス事業

- 実施日時：通年
- 実施場所：千葉県全域
- 従事者数：3名（前期3名）
- 受益対象者の範囲及び人数：起案者3名（前期起案者2名）

地域経済の循環促進を目的とし、地域に特化したクラウドファンディングサイト「FAAVO千葉」の運営を引き続き行いました。前年度同様に一つ一つのプロジェクトにしっかりと取組み、公開前にブラッシュアップする事で、着実に達成率を上げていきました。また、少額プロジェクトを増やし、日ごろ交流のある地域の団体に日常的に活用してもらえるサービスを目指しました。

本年度はクラウドファンディングサイト FAAVO 千葉のプロジェクトを3つ達成しました。いずれも活動自体を広く知ってもらえた事により、将来の活動展開が広がりました。

- ・落合恵子さんと「わくわくする図書館」を考えるフォーラム開催！ in 船橋
58,000円（目標 50,000円）
- ・【マンガ×民泊】気軽に使える至高のマンガ空間「マンガ別荘」プロジェクト
600,000円（目標 600,000円）
- ・南房総の価値を再発見！海の幸をみんなで育てよう！
514,000円（目標 423,000円）

【目標に対する実績】

- ・達成率100%の実現 → 3件すべて達成済みです
- ・プロジェクト公開10件 → 100%達成にこだわり案件を絞った結果3件公開です



南房総の価値を再発見！海の幸をみんなで育てよう！

千葉 農業・漁業・林業

集まっている金額
426,000円
(目標 423,000円)

達成率 支援者数 残り
100% **47人** **31時間47分**

5. その他の事業

- 実施日時：通年
- 実施場所：日本全域
- 従事者数：20名（前期10名）
- 受益対象者の範囲及び人数：会報誌郵送約1,500名/1回（前期約1,000名/月）

先の4事業と団体主旨の普及啓発を主な目的とし、日常的な広報活動を行ってきました。

5-1. 会報誌

12期の方針として情報ステーションの活動を知ってもらうためにつながりを出来るだけ増やすというものがありませんでしたが、図書館活動に興味を持っていただいた方、ボランティアに来てくださった方、本を寄付してくださった方など、当団体に少しでも繋がりがあられる方には情報提供として会報誌をお届けするとともに、名簿管理を徹底、NPO会員の新規・更新の登録フローを確立しました。

また、会報誌の部数を増やし、会員等への郵送以外に提携図書館やイベント等での配布も行い、広く普及に努めました。またそれに伴い、コンテンツの強化に取り組み、従来の論考やアドボカシーだけでなく、日ごろの活動が伝わり、ボランティアやイベントへの参加につながる紙面構成を目指そうとしました。

【目標に対する実績】

- ・会報誌の一般配布 → 直営の図書館や提携先の図書館等に配布。14期も引き続き実施予定です。
- ・会報誌印刷の外注化 → WEBの印刷屋に依頼する等実施済みです。

5-2. 視察・見学・講演

民間図書館の数が全国に増えると共に各メディアに取り上げていただく機会も多くなりました。そのおかげで近年増え続けている視察・見学等に対し、より充実した資料・情報の提供の必要性を感じています。今期でリクエストのあったデータ、質問事項などは次期以降の配布資料作成に反映します。また、気軽に見学等ができるような導線を設定し、見学者の増加も目指しました。

千葉県内にとどまらず全国で約7の講演（TRC・高崎経済大学・横芝光町・千葉大学・コープみらいほか）、約15件の視察（青森県総合社会教育センター・所沢市議会文教委員会・石川県立図書館ほか）、約22のメディア等（月刊公民館・OBS大分放送・UrbanStudy・読売新聞・朝日新聞・毎日新聞・TBSラジオほか）からの取材に対応しました。

